

2. 北部地域の目標と方針

(1) 北部地域の地域構造

- ・ 北部地域の地域構造は、4つの生活圏をベースに生活・文化拠点を核にして拠点近接生活地区に良好な住環境を形成することが求められます。また、地域の特徴を活かした工業との共生エリアを構成することが求められます。
- ・ 北部地域には、等々力緑地・多摩川緑地と大きな緑があります。これらを拠点として位置づけます。このため、等々力緑地と多摩川緑地を一体的な緑の塊として位置づけることが必要です。
- ・ 北部地域は、歴史的な価値の高い、中原街道、二ヶ領用水があります。これらを中心に歴史・文化のネットワークの形成が求められます。
- ・ 等々力緑地は、地域の人以外に、区外からも来訪者が訪れる緑地です。このため、等々力緑地までのルートを中原街道とし、さらに武蔵小杉駅、新丸子駅からも等々力緑地とのつながりを強くすることが必要です。
- ・ 宮内地区、武蔵中原、武蔵新城については、循環型の公共交通網を設け、交通不便地域を解消することが必要です。

① 都市機能・生活拠点(第3都心)

- ・ 小杉駅周辺地区を「都市機能・生活拠点(第3都心)」と位置づけ、商業、業務、文化、遊びなどの複合的機能の集積に加え、地域住民の生活のための機能を合わせた賑わいのあるまちをめざします。

② 生活・文化拠点

- ・ 新城駅、中原駅、新丸子駅を「生活・文化拠点」と位置づけ、地域住民の生活に密着した生活利便性の高いまちをめざします。

③ 拠点近接生活地区

- ・ 都市機能・生活拠点と生活・文化拠点のに近接する住宅市街地を「拠点近接生活地区」と位置づけ、利便性と良好な住環境を備えた都市型住宅市街地の形成したまちをめざします。

④ 緑の拠点

- ・ 等々力緑地と多摩川緑地を地域及び中原区の「緑の拠点」と位置づけ、市民のためのうるおいとやすらぎの場をめざします。

⑤工場との共生エリア

- ・大規模工場及びその周辺や住工混在地域を「工場との共生エリア」と位置づけ、良好な住環境と工場の操業環境が整ったまちをめざします。

⑥歴史文化の軸

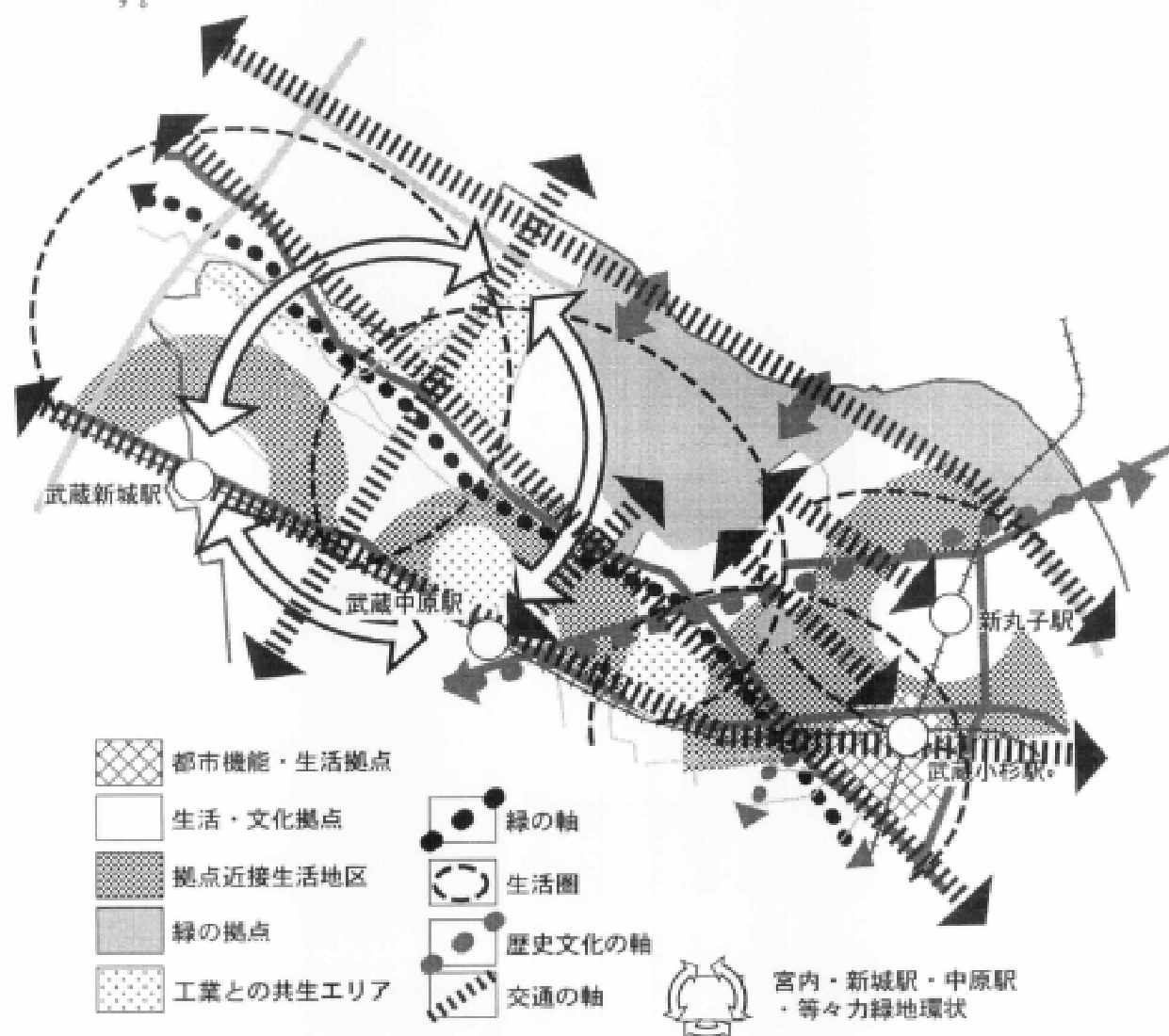
- ・中原街道を「歴史文化の軸」と位置づけ、中原街道の歴史や等々力緑地へのメインルートとしての賑わいのあるまちをめざします。

⑦交通の軸

- ・北部地域の外周部と武蔵新城駅、宮内地区、等々力緑地、武蔵中原駅を結ぶ交通軸を配置し、交通の利便性の高いまちをめざします。

⑧宮内・新城駅・中原駅・等々力緑地環状

- ・宮内・新城駅・中原駅・等々力緑地を環状で結び交通の利便性の高いまちをめざします。



(2) 北部地域の目標

・北部地域の現状と課題を踏まえ、5つのまちづくりの目標を設定します。

水と緑と歴史・文化が調和した地域をつくる

- ①都市機能・生活拠点にふさわしいにぎわいのあるまちづくり
- ②歴史・文化資源を活かしたまちづくり
- ③多摩川とのつながりを重視したまちづくり
- ④住宅と工場が共生した活気あるまちづくり
- ⑤良好な住環境のまちづくり
- ⑥交通の利便性が高いまちづくり
- ⑦自転車と共生するまちづくり
- ⑧災害に強いまちづくり

(3) 北部地域の方針

①都市機能・生活拠点にふさわしいにぎわいのあるまちづくり

1) 第3都心の整備

・小杉周辺は川崎市の第3都心として位置づけられており、商業・業務施設が集積していますが、少し中心部からはずれると住宅市街地になります。このため、商業・業務機能が発展しながらも生活の場としてのまちづくりが求められています。

□商業・業務機能としてのにぎわいのあるまちづくり

→川崎市の地理的中心性を活かした商業・業務機能の集積促進

→日常生活のための商店街充実

→バリアフリー化された利用者を限定しないまちづくり

2) 等々力緑地と小杉駅のつながり

・等々力緑地の来訪者（サッカーなどを観戦した人たち）は、小杉駅を利用する人があまり多くありません。武蔵小杉駅周辺の商店街の活性化のためには、等々力緑地の来訪者が商店街に立ち寄っていくことも重要です。このため、等々力緑地と小杉駅のつながりを重視することが求められます。

- 等々力緑地と小杉駅のつながりの重視
 - 等々力緑地と小杉駅のルートの景観整備
 - 等々力緑地から小杉駅へのサイン計画の充実

②歴史・文化の資源を活かしたまちづくり

1) 中原街道の歴史を活かしたまちづくり

- ・中原街道は、歴史的な街道であり、また、等々力緑地と武蔵中原駅を結ぶルートになっています。このため、賑わいのある中原街道づくりが求められます。
- ・中原街道の歴史やプロサッカーチーム“川崎フロンターレ”を活かし、賑わいのあるまちづくりを行うことが考えられます。
- ・具体的には、次のようなものが考えられます。

□カギの道の活用

- カギの道を遊歩道として整備
- カギの道周辺の歴史的景観整備

□街道や沿道に歴史やサッカーを活かしたデザイン

2) 二ヶ領用水の歴史を活かしたまちづくり

- ・二ヶ領用水は、川崎市を貫く用水です。二ヶ領用水は、中原区だけでなく川崎市のシンボルの一つになっています。このため、愛着のある用水づくりが求められています。
- ・二ヶ領用水の歴史を活かしたまちづくりのために次のようなことが考えられます。

□二ヶ領用水沿川の整備

- 地区計画、建築協定、緑地協定、景観形成地区等による二ヶ領用水を活かした周辺のまちづくりの推進。
- 二ヶ領用水沿いに公園やポケットパークなどのオープンスペースの設置

□二ヶ領用水の親水化整備

- 親水護岸の整備や橋やフェンスなどの修景施設の整備を行った二ヶ領用水の親水化の推進

3)社寺や史跡を活かしたまち

・北部地域には、歴史的資源が多くあります。このことから、歴史的資源を活かした賑わいのあるまちづくりが求められます。

・社寺や史跡を活かしたまちづくりのために次のようなことが考えられます。

□社寺や歴史的史跡を活かした景観整備

→社寺や歴史的史跡を活かしたサイン表示やストリートファニチャーなどの設置

③多摩川とのつながりを重視したまちづくり

1)等々力緑地と多摩川緑地の連続性の強化

・等々力緑地と多摩川緑地は隣接しているながら、多摩沿線道路で分断されています。等々力緑地と多摩川緑地を一体的に利用することが求められています。このため、等々力緑地と多摩川緑地の連続性の強化が求められます。

□多摩川緑地と等々力緑地の一体化

2)多摩川を意識できるまちづくり

・中原区全体においても多摩川と沿川地域は、多摩沿線道路で分断されています。多摩川は、中原区民にとって等々力緑地と並び重要な憩いの場になっています。また、多摩川緑地は、大震災の時の広域避難場所になっています。このため、多摩川と沿川地区とのつながりの強化が求められます。

・多摩川とのつながりを重視したまちづくりのために次のようなことが考えられます。

□多摩川を示すサインの充実

□多摩川緑地へのアクセスの向上

3)多摩川の自然の保全・創出

・多摩川は、市民のレクリエーションの場として重要な役割を担っている一方で、自然の宝庫でもあります。近年、サケが戻ってくるなど水質も良くなってきています。このため、多摩川の自然の保全と新たな自然の創出が今後、ますます重要になることが考えられます。

・多摩川の自然の保全・創出のために次のようなことが考えられます。

□多自然型河川の整備

→自然と共生したレクリエーションの場の整備

→バイオコリドー

※バイオコリドー：生物の移動が可能な連続性のある自然経路

④住宅と工場が共生した活気あるまちづくり

1)産業が充実したまちづくり(住宅と工場が共生したまちづくり)

- ・宮内地区は、優秀な技能を持つ中小工場が集積しています。しかし、近年の景気低迷などにより、中小工場が閉鎖され、跡地にマンションが建ち、工場と住宅が混在しているところがみられます。
- ・中原区の中小工場は、財産と言えます。このため、工場の作業環境と良好な住環境を確保することが求められます。
- ・住宅と工場が共生した活気あるまちの形成のために、次のようなことが考えられます。

□土地利用のルールづくり

→土地利用のルールをつくり住工調和のまちづくり

□まち全体の緑化

→まち全体の緑化を進め等による潤いのあるまちづくり

□まちのPR

→「ものづくりのまち」としてPR等による活気のあるまちづくり

2)工場等大規模施設跡地における適切な土地利用誘導

- ・北部地域には、大規模な工場が立地しています。しかし、最近では、大規模工場が移転し、その跡地利用として住宅開発などがされるところがみられます。
- ・このため、周辺地域と調和した跡地利用が求められます。
- ・工場跡地の適正な土地利用については、次のように考えられます。

□一体的かつ適正な土地利用誘導

→地区計画等による公園、オープンスペースや道路などの公共施設の整備と併せた建築物の規制・誘導

→周辺地域環境との調和

⑤良好な住環境のまちづくり

- ・北部地域では、住宅が密集し、道路が入りくんでいるところがあります。このため、まち全体がわかりづらくなり、さらに災害時に避難が困難になることや火災の延焼などが懸念されます。このことから、密集住宅市街地の改善が求められています。
- ・良好な住環境づくりのために次のことが考えられます。

□敷地の細分化の抑制

→地区計画の策定等による住宅の敷地が細分化されないようなルールづくり

→共同建替えなどによる区画の大きいまちづくりの推進

- 狭あい道路の解消
- 宮内新横浜線沿道の適正な土地利用誘導
 - 都市計画道路沿道の適正な土地利用誘導

⑥交通の利便性が高いまちづくり

- ・宮内地区の一部では、駅から遠く公共交通機関へのアクセスが不便になっています。このため、交通不便地帯の解消が求められています。
- ・交通不便地域の解消のために次のことが考えられます。

- 充実したバス路線の整備

- 武蔵新城駅・宮内地区・等々力緑地・武蔵中原駅を循環するバス路線を設ける。
- バスは、小型のコミュニティバスとし、住宅市街地内を通るものとする。

⑦自転車と共生するまちづくり

- ・中原区は、平坦な地であり自転車を利用する人が多くいます。自転車は、手軽であり、自動車と比べ環境にやさしい乗り物です。しかし、走り方、止め方によりまちの害になります。このようなことから、自転車の走行も歩行も安心してできるまちづくりが求められます。
- ・自転車の走行も歩行も安心してできるまちづくりのために次のようなことが考えられます。

- 自転車道の整備

- 緑道や河川などを利用した自転車道路の整備
- 幹線道路に自転車道路を整備

- 利便性が高いところでの駐輪場の整備

- 駅周辺の自転車駐輪場の充実

⑧災害に強いまちづくり

1) 災害を起こさない

《地震・火災》

- ・北部地域は、住宅が密集しているところが多くあります。このため、大地震による同時多発的な火災発生が危惧されています。このことから火災の延焼防止が求められます。
- ・災害を起こさないまちづくりとして次のことが考えられます。
 - 建物の耐震・耐火化の推進
 - 密集住宅市街地の解消

《水害》

- ・北部地域は、多摩川に接していること、土地が低くなっていることなどから、水害の被害が大きいことが予想されます。このため、水害に強いまちづくりが求められます。
- ・また、局地的な集中豪雨への対策を考える必要があります。
 - 多摩川の堤防強化
 - スーパー堤防の整備推進
 - 保水性の高いまちづくり
 - 二ヶ領用水などへ計画的な排水
 - 農地の保全
 - 学校や公園などへの雨水貯留施設の設置推進
 - 調整池の整備推進
 - 透水性の高い舗装の整備推進
 - 各戸の庭を透水性を高くすることや雨水貯留施設の設置の推進

2) 災害を拡げない

- ・北部地域では、密集住宅市街地が多いことから、火災の拡大が懸念されています。このため、災害が広がらないまちづくりが求められます。
- ・災害を拡げないために次のようなことが考えられます。
 - 火災が広がらない住宅市街地の形成
 - 各建物の耐震、耐火化の推進
 - 地区内道路を拡幅推進
 - 個々の家が緑化することによる延焼の防止
 - 農地などのオープンスペースの保全

□延焼遮断帯の整備

- 延焼を防ぐための常緑樹を中心とした街路樹の植栽推進
- 延焼を防ぐための幹線道路沿道に耐火の建物の誘導
- 幹線道路の拡幅を図るため都市計画道路の早急な整備推進

3)安全な避難

- ・地域防災計画では、多摩川河川敷一体が広域避難場所として位置づけられています。また、等々力緑地という大規模なオープンスペースがあります。このことから、北部地域は、大規模災害時の避難場所には近くに位置しており恵まれた地域です。しかし、北部地域には、府中街道や中原街道などの幹線道路があり、これらの道路の横断時の危険性が懸念されていることから多摩川河川敷への安全な避難路の確保が求められています。
- ・安全な避難のために次のようなことが考えられます。

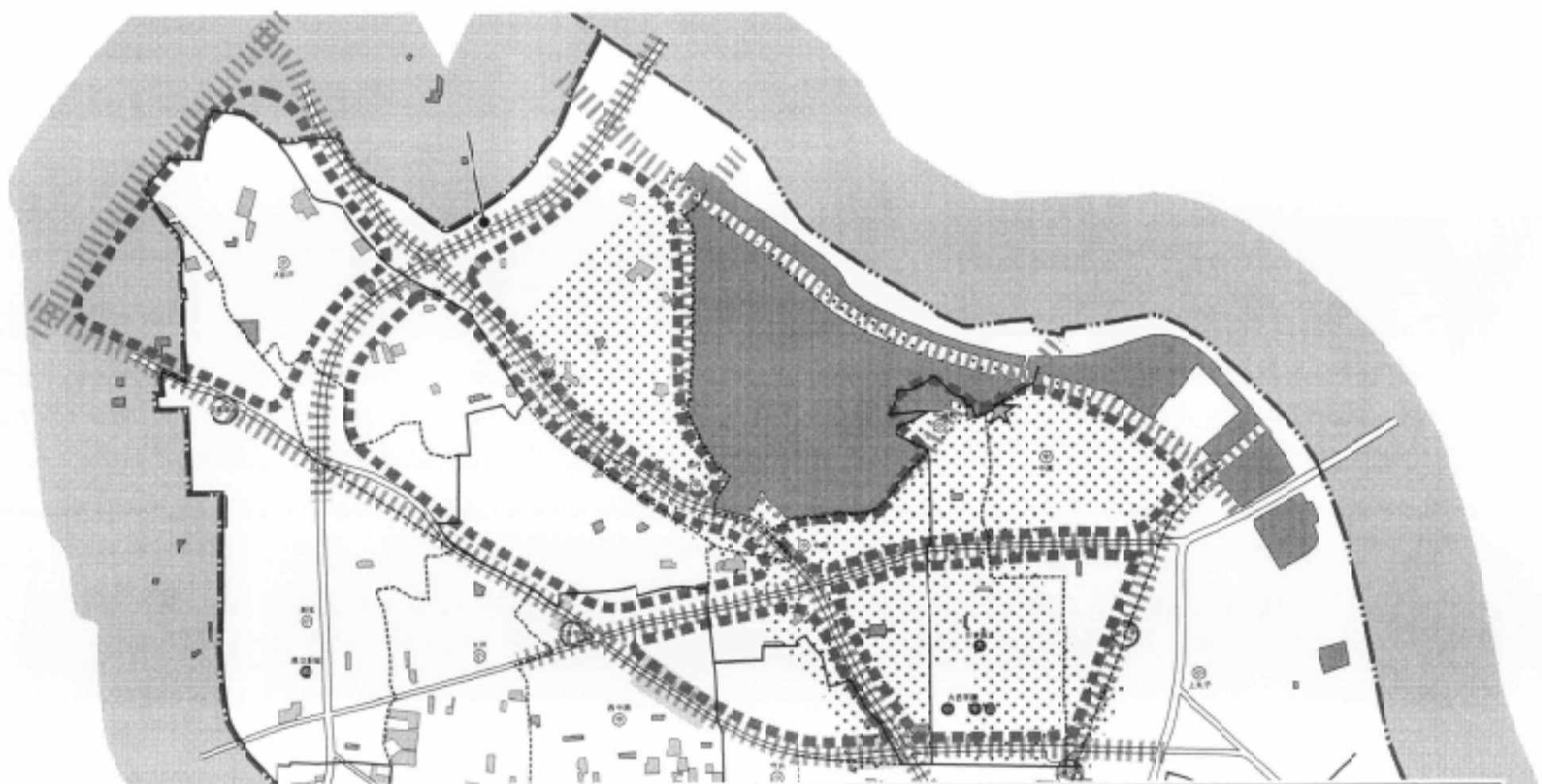
□広域避難場所までの安全な避難路の確保

- 避難路になる道路に耐火建物を誘導
- 避難路になる道路に街路樹の整備推進
- 計画的な道路整備を推進し安全な避難路の確保
- 災害時の交通規制を強化

□安全な避難場所の確保

- 市民生活動向を考慮した適切な避難場所の配置
- 避難場所周辺の耐火、緑化推進

■災害に強いまちづくりの方針図



- | | | |
|---|----------------------|---------------------------------|
| <p>ⓂⓂⓂ 市立小学校・中学校・高校（避難所）
※その他の学校は、白抜き</p> | <p>▨ 沿道の耐震・耐火化</p> | <p>Ⓜ まちの透水性の確保や貯留施設を設置するゾーン</p> |
| <p>■ 公園</p> | <p>▩ 建物の耐震・耐火の促進</p> | <p>耐水化建築物を推進するゾーン</p> |
| <p>▨ 生産緑地</p> | <p>▨ 狭い道路の拡幅</p> | |
| <p>▨ 都市計画道路</p> | <p>▨ 地区内の緑化水維新</p> | |